



会長 加藤 功
幹事 富樫 松夫

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

超私の奉仕

第2300・2301回 例会会報 平成18年1月17日(火)・24日(火) 雪(本年度 第26・27回)

会長報告

加藤 功

農業に於いて、土地改良・基盤整備は現在では国家・公共事業として供給されている。土地基盤整備事業には土木技術工法ならびに機械や農業用水路に必要なコンクリート二次製品など農業関連産業の発展が伴わなければならない。下記は最上川下流右岸土地改良事業の竣工を記念した碑文である。

「最上川疎水記」

『この疎水は最上川萬古の豊流を初めて飽海の沃野に導入した偉業である。そもそもこの地区は最上川に寄り添いながら、その恵沢に浴し、
難い地勢に在り、往昔の開田以来久しく用水を相沢、日向、荒瀬等他の諸川に求めなければならなかった。これら諸川は水乏しく排水も不便で旱害、溢水の危難もごも至り、その対策として昔ながらの溜池貯水に努力するだけであった。江戸時代に入り疎水による抜本策が再三計画されたが、工法未だに進まず資力も足らず実行に至らなかった。明治以来電気揚水により活路を開いたが農法の進歩、乾田の普及により揚水の需要急増し機械力では既に需要に応じ難くなっていた上に、最上川の河床低下に遭い危機感は一層深まった。ここにおいて、昭和25年関係地区民相謀り疎水期成同盟を結成し国及び県に助成を請うた。この時に当たり、最も頼もしい力となったのは穀倉飽海が既に国倉にまで成長していたことである。その無言の実績が世論を導き、政府を動かし遂に疎水国営の決定に至らしめたのである。爾来調査3年、施行10年、昭和44年10月竣工、これに呼応して県及び組合営付帯工事も同時完了、歴代の宿願ここに成り、山河も喜びに溢れ美田も希望に輝いた。この美田を愛し、この山河と共に営々勤苦に明け暮れた歴代先人の満悦は如何ばかり、既往を顧み今日を思い、この偉業に尽力された官民群賢の深恩を謝し、この碑を建てる。』

昭和45年4月29日

山形県会議長

最上川下流右岸土地改良区 前田 巖
撰文』

上述のように、最上川の河川事業のねらうは、新たな水源地最上川下流からの水の吸引であり、又逆に溜まった水を排水するための河川改良、排水路の設置がそれである。前田巖はそれらの工事に大きな貢献をしたことを示している。

■ゲストスピーチ

出羽三山信仰と戸川先生著作集、そして世界遺産

山形大学農学部教授 岩鼻通明氏

この度、岩田書院より、戸川安章先生の著作集が刊行されたので、最初に紹介させていただきたい(『出羽三山と修験道』・『修験道と民俗宗教』2005年3月、各9900円(本体価格))。



まず、第1巻の『出羽三山と修験道』の「出羽三山信仰にみる浄土観」では、1596年の修理以降、手向の黄金堂はコガネ堂と呼ばれるようになり、それ以前は山上の大金堂(本社)に対する山麓の小金堂であったことを指摘されている。その重要な聖地を明治の神仏分離以降は仏教側が支配している意味は大きいといえよう。

次いで、「出羽の修験道」では、芭蕉が「奥の細道」の三山参詣で、東補陀落に廻ったことを指摘されている。曾良の旅日記の記載を単なる注記とみてはいけないと記されており、私見では、その時間的余裕はなく、やはり注記にすぎないとみたのであるが、今後の再検討が必要であろう。

第2巻の『修験道と民俗宗教』の「修験道における修道実践と民俗」では、小学校4年生で峰入りに参加した経験から、近年の山伏の世界が形骸化していることを問題視しておられる。修行が簡略化し、

車が動いていない時は

ストップ! アイドリング

厳しさが薄れてきていることを指摘されている。

最後に、蛇足ながら付け加えると、山形県が出羽三山の世界遺産指定を進めようとしているが、本書には、そのために不可欠な課題が盛り込まれていると言えよう。重要な問題としては、文化財の保存と宗教的統合であろうか。羽黒修験に関わる史料集の刊行は、文化財保護の面からも大きな意味があり、手向の宿坊に所蔵されている史料も含めて、本格的な史料調査の必要が急務であり、それは世界遺産をめざす前提ともなろう。古文書史料の保存だけでなく、時代の流れとともに失われつつある茅葺きの宿坊の町並み景観の保全もまた急務である。

高齢化や都市化にともない、出羽三山信仰の活性化が求められつつある現在、仏教と神道が分裂したまま、ばらばらに宗教活動を行っている時代ではないとも言えるのではなかろうか。

世界遺産は、自然保護と景観保全を第一義とするものであることから、21世紀の今、出羽三山が信仰が再び活性化できるかどうか、その出発点に、この著作集が位置づけられることを願いたい。

たら汁例会

越智茂昭

鶴岡独特の地吹雪もない好天の去る24日「たら汁例会」が、日頃からお世話になっております寒河江 RC の我孫子 PG、昨年「そば例会」にお招きを受けた会津若松南 RC の方々、そして交換留学生のアビーさん、ホストクラブ余目 RC の大瀧さんと大勢の方々のご参加を頂き三瀬の「坂本屋」さんで盛大に開かれました。

我孫子 PG のスピーチ



会津若松南 RC の方々、遠方よりありがとうございました

産卵のため浅いところへあがって来たところを私たちの食に供される鰯、少し可哀想な気もしますが庄内の冬の珍味として最高のご馳走と聞いていたので楽しみに出かけました。

たら汁会ですので当然、寒鰯のどんがら汁がメイン、それに庄内浜で摘んだ岩のりを入れ、鰯腹と思っていたところ、司会者から遠方よりはるばる来て下

さった方がお代わりしてからと強く言われてしまいました。会津若松から塚原さんへのお土産のお酒を飲んでいるうちにたら汁のお代わりするのをすっかり忘れてしまいました。白子の天ぷらを初めて食し、鶴岡にはまだまだ美味しいものが沢山あるのではと思った幸いです。

帰りは、悪い先輩方から無理矢理二次会へ。第一ホテル9階から鶴岡の雪の夜景を眺めながら遠来のお客様と語り、これぞロータリーという一晩を思う存分楽しませて頂きました。

台中港区扶輪社より 35周年式典の案内

大会日程：2006年5月9日～10日

場所：台中市 新天地

(歓迎晩餐会・35周年記念式典・ゴルフ)

委員会報告

●出席委員会

委員長 阿蘇司朗

本日の出席		前々回の出席	
会員数	47人	出席率	56.82%
出席数	32人	修正出席数	30人
出席率	72.73%	確定出席率	68.18%

●メイクアップされた方

藤川享胤君・斎藤 昭君・佐々木喆彦君
富樫松夫君・塚原初男君・上野欣一君

●ビジター

阿部勇雄（鶴岡西 RC）・金 烘鍾（鶴岡東 RC）

○年間出席者

10年 若生恒吉君・嶺岸禮三君

5年 石田 雄君

12月 100%以上出席者

275% 藤川享胤君

175% 富樫松夫君

150% 加藤 功君

100% 阿蘇司朗君・阿部純次君・秦 幸助君

樋渡美智子君・本間昭吉君・石田 雄君

加藤恒介君・丸山隆志君・嶺岸禮三君

越智茂昭君・斎藤 昭君・佐々木喆彦君

佐藤孝子君・白幡憲一郎君・桜井 隆君

富田喜美子君・塚原初男君・若生恒吉君

スマイル

塚原初男君 久しぶりに岩鼻先生のお話を伺い嬉しく思います。先生の著書、早速購読させていただきたいと存じます。ありがとうございました。

富樫松夫君 岩鼻先生、スピーチありがとうございました。